La Math　JSA通信 9　2017.10.15

The Japan Scotland Association

NPO法人 日本スコットランド交流協会ニューズレター　発行責任者：片桐　宏典

Friendship & Exchange

スコットランドの風

第5回『日本スコットランド交流協会』総会開催

2017年5月26日、英国大使館にて第5回NPO法人日本スコットランド交流協会総会が定款第27条の定める要件を満たし開催されました。（会員数200人に対して出席者52人、委任状63人、計115人）
冒頭、片桐宏典会長から昨年11月に開催された「Scotland DAY in Tokyo 2016 」に関しての報告がありました。続いて、議長の荒井健太郎氏によって議事進行が行われ、28年度の事業報告及び活動計算書（2016.4.1-2017.3.31）、監査報告、定款の変更が満場一致で承認されました。
その後引き続き開催された懇親会では、総勢約90人以上の方々に参加頂き、開会の言葉をJSA名誉顧問　関妙子氏より頂きました。
今年はゲストスピーカーとしてスターリング大学学長　Prof. Gerry McCormack氏、ブリティッシュ・カウンシル・ディレクター　Matt Burney氏、スコットランド国際開発庁日本代表 Dr. Stephen Baker氏、外務省の大鷹参事官から最新の日本とスコットランドの事柄をお話しいただきました。

乾杯の音頭はスターリング大学事務局長 Ms. Eileen Schofield氏に取っていただき歓談の時間がスタートしました。懇親会の合間には世界的なバグパイパーのGerald　Muirhead氏に演奏を行っていただきました。会場は圧巻の演奏にみなさん聞き入っていました。また、飛騨高山美術館館長　向井鉄也氏も懇親会に参加いただき美術館とグラスゴー出身の建築家・芸術家であるCharles Rennie Mackintoshについて大変興味深いお話を伺うことができました。

Gerald Muirhead氏

Dr. Stephen Baker氏

Matt Burney氏

Prof. Gerry McCormack氏

Eileen Schofield氏

片桐会長　向井氏　関名誉顧問

Scotland Day in Tokyo 2017 11/25 開催決定

昨年に引き続き今年も11月25日東京芸術劇場にて「Scotland DAY in Tokyo 2017 」が開催されます。今年の講演は佐藤健作氏と山下円氏がエジンバラフェスティバルについて、映画評論家で元エディンバラ・フィルムフェスティバル・ディレクターのChris Fujiwara氏をお招きしスコットランド映画についてお話しいただきます。その他、スコットランド留学フェア、様々な分野の専門家がプレゼンテーションする「ペチャクチャナイト」(*1)、そして夜は食事と音楽、Scott Leslie氏を迎え、楽しくケイリーダンスを行います。どうぞ、乞うご期待下さい。

Scott Leslie氏

Chris Fujiwara氏

*1　ペチャクチャナイトとは1人20枚のスライドを20秒間づつプレゼンテーションするイベントです

会長挨拶

会長　片桐 宏典

11月25日、第2回「Scotland Day in Tokyo 2017」が東京芸術劇場にて開催されます。昨年、手探りで作り上げた第1回が高く評価され、スコットランド政府の支援と助成も大幅に増え、将来へ向かって着実に成長し、JSAの代表的イベントとして、各方面を巻き込みながらその存在感を増しているのを、会員の皆様にご報告出来るのは何よりの喜びです。

わずかな会費収入の中から捻出する奨学金とともに、一般的な国際交流団体とは活動の本質が決定的に違う我々の活動はこの「交流」協会というタイトルを掲げる当協会の本領発揮と自負いたします。

日本から多くの若い方々がスコットランドの各大学で学び、直接現地での交流を通して、直に日本とスコットランドの歴史的な関係への理解を深められ、人と人のつながりによる広範な国際理解と自己啓発の機会を得られた事と思います。帰国後も単なる知識の蓄積ではなく、刻々と変遷していく現代世界を捉える窓口として、「交流」相手として、英国とくにスコットランドは日本との相性がとてもよろしいのではないでしょうか。

芸術の秋です。世界でもトップクラス、最大規模のエディンバラ国際フェスティバルが今年70周年を迎えました。これは「SDT2017」の今年のテーマでもあります。現地でその空気に触れた方も、いつか行ってみたいと夢見る方も11月25日に東京でその片鱗を体験することができます、ぜひご参加下さい。

素晴らしい動植物に囲まれて

在エディンバラ総領事　松永 大介氏

昨年5月上旬に赴任して以来1年半が過ぎようとしています。おかげさまで公私ともに充実した日々を過ごしております。着任後1ヶ月半でEU離脱の国民投票があり、徹夜で開票をフォローしその後早朝出勤したことを昨日のことのように思い出します。というわけで、仕事面でも充実した時には忙しすぎる毎日を過ごしておりますが、今日は少し趣向を変えてスコットランドの動植物について語ってみたいと思います。

着任した当時は石楠花で花盛りの頃でしたが、しばらくする内に、地元スコットランドの人々が天候について自嘲的にScottish weatherと呼ぶことに気づきました。シャワーと呼ばれる柔らかいにわか雨が多いことで、外国から来た人々はうんざりしているだろうと同情していることも分かりました。しかし、自宅で野菜や草花を植えるようになりましたので、粉糠雨（こぬかあめ）と日射しが交互にやってくるスコットランドの天候は園芸に最適であり、同情されるには及ばないと思うようになりました。

スコットランドで大変興味深いのは植物の変化が非常に速いことです。自宅では芝刈りが2週間に1回あるのですが、芝刈りと芝刈りの間に発芽し開花する植物があります。それどころか早朝は見かけなかった花が昼休みに咲いていることさえあります。また食材の切れ端（レタス、セロリ、葱など）を鉢に植えていたところ、見事に大きな野菜に成長しました。また、去年の秋には収穫しきれないほどのリンゴが裏庭になりました。

スコットランドは、植物のみならず動物にも親しみを感じられる土地柄です。我が家にもときおり狐の親子が出没しますが、狐は夜行性でもあり人目を避けているため遭遇はごくたまになります。しかし、興味深そうにこちらを見ていることもあり、幾分かの愛嬌が感じられます。他方、鳥の種類も多く、日本でもおなじみの鳩やカラスはもちろんのこと、マグパイ（magpies）と呼ばれる灰色と黒の混じった鳥や、ロビン（robins）と呼ばれる胸が薄赤い小鳥が良く庭に現れます。リスはgrey squirrelsという灰色がかった種類が主流ですが、これは北米から来た種類でスコットランド原産の赤リス（red squirrels）を駆逐して繁殖したようで、地元の人からはあまり好かれていません。しかし、最近は原産の赤リスをもう一度増やそうとの運動がある程度効を奏しているようです。

少し郊外へ出れば、羊や牛が緑の野原に放牧されている光景がここかしこに拡がっています。また夏の終わりから秋にかけてハイランドの山々が一面に薄ピンクのヘザー（heather）に覆われる光景は圧巻です。ハイランドの動物としては、前髪を垂らした可愛いハイランド・カウがのんびりと草を食んでいる姿は忘れられません。

というわけで、豊かな動植物に囲まれた生活は仕事で疲れた心身を十分にいやしてくれます。皆さんも次にスコットランドを旅行されるときは、動植物に親しむことをポイントにされては如何でしょうか。

ハイランド・カウと共に

花盛りの石楠花

Professor Trevor Runcie　Chairman of the Japan Society of Scotland

For over 150 years there have been strong bonds linking Japan to Scotland. The Japan Society of Scotland aims to strengthen these bonds and promote new academic, cultural and business connections.

As I come from the city of Aberdeen, I have always been inspired by the story of Thomas Blake Glover - "The Scottish Samurai" - who was one of the early pioneers who travelled from Aberdeen to Nagasaki in the 1850s and was a key figure in the industrialisation of Japan.

However, there are many other famous Scots who had an influence in Japan during the early Meiji period that are somewhat less known. These include: Henry Dyer who helped to create the new Imperial College of Engineering (Kobu Daigakko) in Tokyo; Henry Brunton the "Father of Japanese lighthouses"; and Alexander Shand who helped to the develop the banking system in Japan.

In parallel, there we also many famous Japanese pioneers that travelled to the UK and Scotland. Everyone knows the story of the Choshu 5 who arrived in the UK to study western technologies in 1863. However less people are aware that two years later in 1865, 19 students from Satsuma made a similar expedition.

Nagasawa Kanaye, one of the Satsuma 19 and only aged 13 years old, came to Aberdeen and studied at a high school known as "The Gymnasium" - now "The Cruickshank Building" at the Chanonry in Old Aberdeen. Archives of the local Aberdeen newspaper of the time show he was an absolutely outstanding student.

All of Nagasawa's colleagues returned to japan after their time in the UK, but Nagasawa chose to stay in Scotland. Later he moved to New York and finally California where he opened a very successful vineyard that is still in operation today. This summer I had the pleasure to visit San Francisco on a business trip and took the opportunity to investigate Nagasawa's legacy.

Nagasawa Park near Santa Rosa California

Nagasawaは薩摩19の一人で、明治維新直後に11歳という若さで、UKに渡りトーマス・グラバーの家で育ち彼と同じ高校に行き、その後16歳で、渡米、California でWineを創り成功、King of Wineと言われています。
この写真はその脇で撮られています。

Nagasawa opened the vineyard "Paradise Ridge Winery" in 1877, which still has the same name today. You can find the vineyard in Santa Rosa: a 40-minute drive north of San Francisco. Inside the wine tasting room there is a small museum dedicated to Nagasawa which mentions his time in Aberdeen and apparently people he met would comment on "his strong Scottish accent". There is also a park named in his honour nearby. It is wonderful that Nagasawa's journey from Japan to Scotland to California is still remembered.

There are many other stories of people traveling from Japan to Scotland during the late 1800s such as Watanabe Kaichi who studied engineering in Glasgow and worked as a construction foreman on the famous Forth Rail Bridge. In the early 1900s, Natsume Soseki lived in the UK and spent time in the beautiful picturesque Scottish village of Pitlochry.

Scotland's connections with Japan continue to grow. Recently I spent two days with Professor Ikuo Yamamoto, from Nagasaki University, who was made a "GlobalScot" and is working hard to promote academic and business co-operation between our two countries.

I look forward to helping to make many more new connections between Japan and Scotland and extending the spirit of friendship and co-operation.

JSA奨学生の紹介

初田　清佳氏

スターリング大学大学院　International Businesssコース

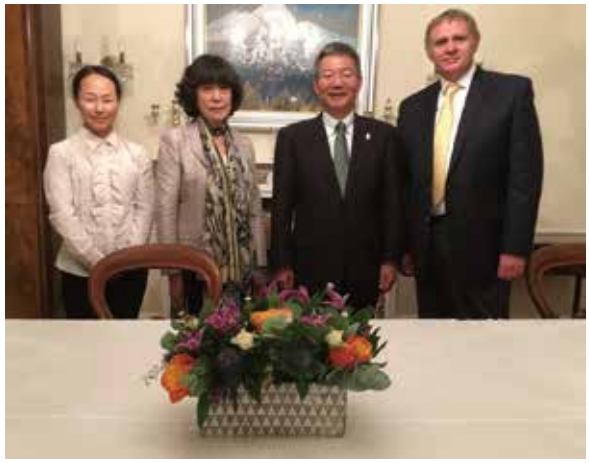
この度は日本スコットランド交流協会の奨学生に選んでいただき、大変感謝申し上げます。私は現在、スターリング大学のMSc International Businesssにて34人、約15カ国の学生とともに学んでおります。現在までの2週間はコースの序章ということで、Academic Presentationの仕方や基本的なビジネスにおける専門知識を学んでおりました。日本とは違った実践・参加型の教育の中で、日々様々な国籍の学生たちとお互いの文化や経済、またビジネスについての知識を議論討論できることに喜びと面白さを感じこれから一年の学習を今から楽しみにしております。皆様方にきちんとした報告ができますよう、これからもしっかりと学び、一年後にはさらに成長した自分に出会えるように日々邁進してまいります。

初田氏（右から3人目）

松永総領事、Runcie JSS会長とのDinner

この夏、2年ぶりのStirling滞在中に、総領事の松永大介氏とお目に掛かり、Scotlandと日本の交流を更に推進することなどのお話しをする機会を得ました。8月18日には、Japan Society of Scotland（JSS)の新会長となられたDr. Trevor Runcieとの夕食会を総領事公邸で設けていただき、JSSとJSAがこれから、文化、教育、ビジネスなど多方面で連携を強化していくことなど確認できました。松永総領事のScotlandに対する深い知識と愛情にあふれるお話を伺いながら、大変美味しいお食事を挟んで、貴重な時間を過ごさせていただきました。松永氏は9月1日はStilring大学のSummer School に参加していた日本人学生の修了式に出席し、Speechをされるなど、心から支援して下さっている姿に感銘を受けました。Runcie 氏は来年の5月のJSAの総会に来日され、会員の皆様と親しくお話しすることを楽しみにしると話されました（関妙子）

Summer Course 終了式（中央に松永総領事　McCormac学長）



夕食会（村田副領事　関名誉顧問　松永総領事　Dr. Trevor Runcie）

スコットランドに滞在・訪問された会員の方々

スターリング大学大学院で学んで　鈴木 瑞穂

こんにちは。日本スコットランド交流協会の2016年度の奨学生に選んでいただきました鈴木瑞穂です。このたび、スコットランドでの一年のマスターコースを終え、無事に日本に帰国致しましたことをご報告いたします。スターリング大学ではメディアマネジメントコースに所属し、メディア産業の現状や課題などについて学びました。一年間の集大成である修士論文では、英国と日本における映画制作を取り巻く政策や環境についての調査を行い、その違いを比較しました。また幸いなことに、毎年２月末にスターリング大学で開催されるJapan weekにて、お箏のミニコンサートを開く機会をいただき、先生や学生を含む現地の方々の前で「さくら」や「蛍の光」を演奏いたしました。今回のマスター留学は私にとって初めての長期留学でした。生活環境から大学のシステムに至るまで、ありとあらゆるものが日本と異なり、なかなかスムーズにいかず思い悩んだこともありましたが、家族や友人、そしてJSAの皆様を始めとする周りのサポートによって、充実した一年を過ごすことができたと思います。ありがとうございました。

スターリング城にて

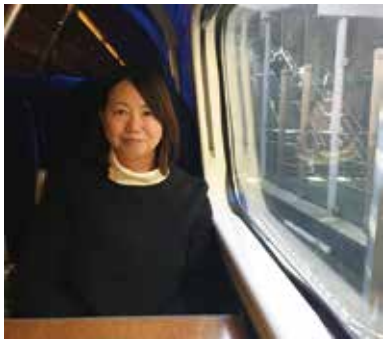
修士論文を手にして

Japan Weekでの演奏

スコットランドの暖かさに触れて　小根山 茜

昨年9月、私はグラスゴー大学にて修士課程を修了し帰国致しました。グラスゴーはスコットランドの経済の中心地で最新文化の発信地と言われる一方、グラスゴー大学は500年以上の歴史を持ち、街には築100年以上の建物が並ぶなど、重厚感あふれる雰囲気がありました。人々には、知らない人でも街中などで気さくに話しかけてしまうような暖かさもあります。
そんなグラスゴーで、私は障害の有無に関わらず全ての児童生徒が同じ環境で学ぶことを目標とする、「インクルーシブ教育」について研究して参りました。クラスメイトにはスコットランドの学校で教えている現役の教師や世界各国から来た留学生も多くおり、様々な背景を持った学生が学んでいました。しかし皆共通して教育への情熱を持っており、「インクルーシブなクラスを目標に」を合言葉に助け合いながら学ぶなど、刺激的で暖かい環境の中で研究を進めることができました。小さな教室の中でも国際的な雰囲気の中に身を置くことがきたと感じております。歴史を大切にしながらも新しい文化や国際化の流れを受容するスコットランドの暖かさに包まれた、有意義な留学生活となりました。

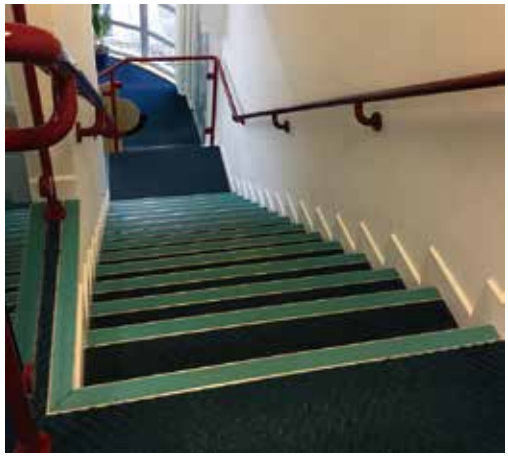
認知症サービス開発センターを訪れて　矢嶋 浩子



矢嶋氏

協会の行事がご縁となり、今年の5月にスコットランドを訪れた際、スターリング大学の認知症サービス開発センターを訪問させて頂きました。同センターは「認知症にやさしい環境デザイン」の研究機関で、内部のモデルルームの見学後、イギリス及びスコットランドの高齢者福祉制度についてお話を伺うことができました。
モデルルームは認知症の人の視覚能力の研究を元に、「LRV」というものを取り入れて、室内の物を認識しやすいデザインを考えて作られているそうです。「LRV」とは、「Light Reflectance Values (それぞれの色が持つ光の反射の度合い)」の略で、老化で人の目の認識能力が変化し「色そのもの」が見えにくくなってきても、「LRV」の認識能力は比較的後まで残るそうで、この「LRV」の高い色と低い色を適切なコントラストでうまく組み合わせることで、部屋の中で認知症の人が物を認識しやすく、また転びにくくなるように工夫をし、ストレスが軽減されるようなデザインの研究を行っている、とのことでした。
スコットランドの高齢者福祉について、現地で直接お伺いできる貴重な機会を頂き、大変ありがたく思っています。

認知症開発センター内部の様子



認知症開発センター内部の様子

スコットランド再訪　加藤 秀

2016年、私はスターリング大学のサマースクールに参加し、素晴らしい季節のスコットランドを満喫致しました。その経験はこれまでの人生では得られなかったもので、言葉では到底語り尽くすことのできない大切な思い出となっています。そして皆さんの例に漏れず、帰国早々よりスコットランドへの逆ホームシックを発症。その思いは抑えられず、気がつけば今年の夏もスコットランドの大地を踏みしめていました。ただいまスコットランド！

今回はサマースクールには在籍せず、フリーでスコットランドを巡って旅を満喫することにしました。ハイランド地方、スカイ島、オークニー諸島を巡り、美しい夏のスコットランドを堪能。

後半はスターリングにてゆっくりとした時間を過ごしました。昨年行きつけたPubでは「久しぶりだね！」と見知った顔達との再会に喜び、また話したことのない人からも「去年も居たよね！」と話しかけられ輪が広がりました。スコットランドは以前、夢にまで見た遠い憧れの国でした。それがこの2年を経て、再び帰ることの出来るとても暖かい場所になりました。

今ですか？もちろん逆ホームシックを発症しています。

オークニー諸島ツアーで一緒になった皆さん（一番左 加藤氏）

グランタウン・オン・スペイにて

子連れスコットランド旅行
ー Edinburgh Festival でMilitary Tattooを見る ー　関　裕子

この夏、2人の子供(11歳、6歳）を伴い、Scotlandで4週間過ごしました。15年程前に短期留学をしたStirlingを拠点に、Highland、Safari Park、Glasgow、Edinburghなどを訪ねました。EdinburghではMilitary Tattooを楽しみ、大人数でのバグパイプの演奏の迫力に心が震えました。今年は日本の陸上自衛隊中央音楽隊が初参加。女性隊員によるAnnie Laurieの独唱も素晴らしかったです。子供たちにとっても記憶に残る旅になったと思います。

Military Tattoo

スコットランドからの留学生　Julie Bastrup Perruchon氏（早稲田大学大学院）

I am a former student of the University of Stirling in Scotland, and a current Graduate student of Waseda University. During my years in Stirling、I did a joint degree in English Studies and French, which deepened my fascination for languages and cultures. Beside my 'day time' studies, I was fortunate to have the chance to join evening classes provided by the University to study Japanese. My teacher, Ishikawa Noriko, opened up a whole new world for me, and it is thanks to her that I developed a fascination for Japanese culture and language,

As such, during my fourth and last year at the University of Stirling, I decided that I wanted to spend some time in Japan. So it was with determination that I decided to apply to Waseda's Graduate School of International Culture and Communication Studies. The application procedure was completely foreign to me, and I remember being quite intimidated by it at the beginning; I was in the process of completing my dissertation, and suddenly I had to write a research plan to send along with the rest of my application documents. Looking back, I can say that it was challenging, but also very fun. In my research plan, I decided that I would focus my on how different traditional societal systems have affected Japanese youths. I was very fortunate to be accepted by Waseda University which means that I have the chance to delve deeper into the research of this subject. My main focus of study is Culture and Communication, while my directed research is under The Intellectual and Literary History of Japan. I hope to learn a lot during my stay in Tokyo, both academically and personally, as life here is different from anything I've ever known.

小林紀子バレエ・シアター「マクミラン没後２５周年記念公演」バレエ鑑賞報告

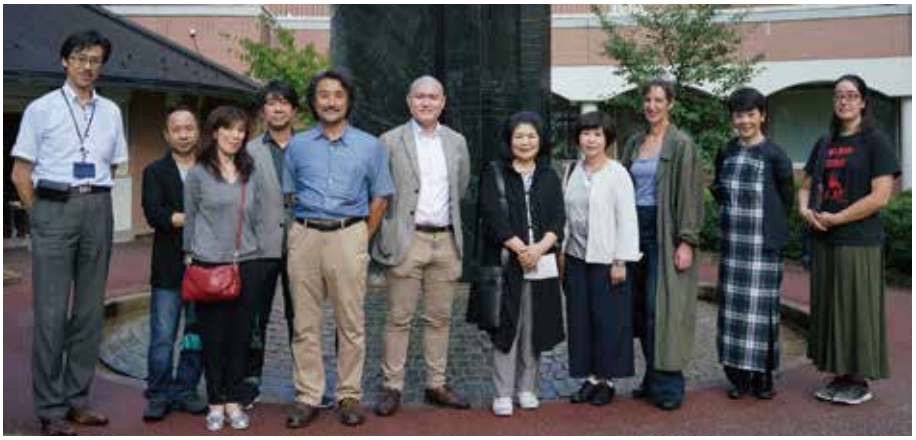
上門和子氏　上門理事　小林紀子氏　デボラ・マクミラン氏　Dr. Stephen Baker氏　関名誉顧問

日時：8月26日（土）
会場：新国立劇場オペラハウス
演目：La Fin du Jour、春の祭典(ケネス・マクミラン振付)
　　バレエの情景（フレデリック・アシュトン振付）

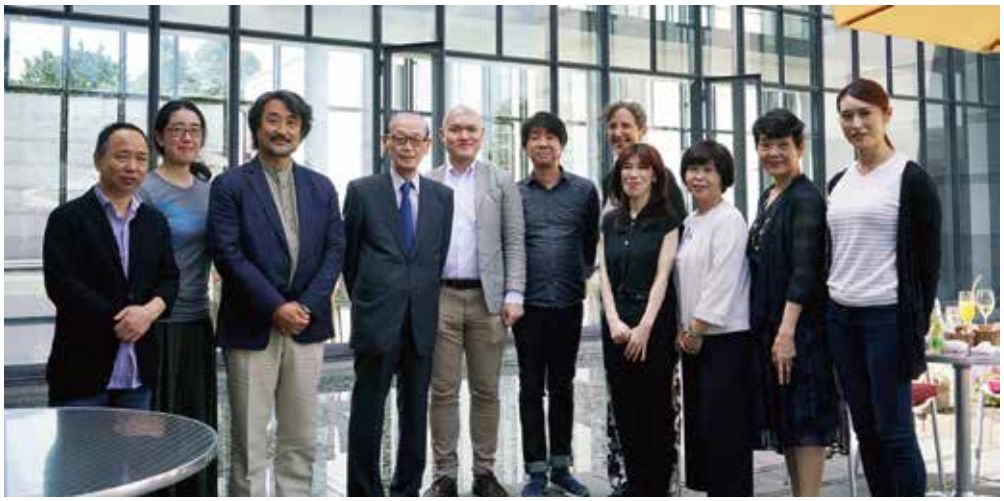
東京目白にある「小林紀子バレエ・シアター」は、英国ロイヤルバレエとゆかりある振付家の作品、特に日本では珍しいとされる作品を数々上演してきた希有なバレエ団のひとつです。今回はスコットランド出身の振付家ケネス・マクミラン氏の没後２５周年を記念した公演で、上記の２作品は日本初演という非常に貴重なものでした。小林バレエ団代表の小林紀子氏からお招きを受け、JSAからDr. Stephen Baker, 関妙子、上門周二・和子が鑑賞させていただきましたが、その迫力のある舞台に圧倒されました。この公演に際し来日された、ご自身も芸術家(画家）であるデボラ・マクミラン夫人が、バレエ団の功績を賞賛し、大変喜んでおられたのが印象的でした。(上門和子）

第1回　JSA飛騨高山ツアー記

去る2017年9月12日から13日に飛騨高山へツアーを催行いたしました。本ツアー企画のきっかけは飛騨高山美術館館長　向井鉄也氏にご招待いただいたことでした。飛騨高山美術館にはアール・ヌーヴォー、アール・デコのガラス工芸品、家具、照明器具等が多数、収蔵されています。スコットランドにおけるアール・ヌーヴォーの提唱者であるチャールズ・レニー・マッキントッシュ（Charles Rennie Mackintosh）の作品も「マッキントッシュの部屋」という常設展示コーナーに収蔵されています。「マッキントッシュの部屋」は単なる家具の展示にとどまらず、マッキントッシュの設計した部屋そのものまでをも再現しています。12日には高山市内で医療福祉法人を経営されているJSA会員の折茂佑子氏に招待いただき、施設やその庭に展示されている彫刻作品を見学させていただきました。13日は朝から飛騨高山美術館を訪問し、館長自ら案内いただいて展示作品を鑑賞しました。各作品の来歴のみならず、展示手法に至るまで館長の細やかな心遣いが行き渡っていることを教えていただきました。高山市街地は生活の場でありながら歴史的街並みが良く保存されています。酒蔵が並び日本酒の試飲が楽しめる点はエディンバラやグラスゴーのウィスキー醸造所を思い起こさせます。JSAでは今後も定期的に飛騨高山ツアーを企画していきたいと考えています。12日昼食のお手配と施設見学をさせていただきました折茂氏、12日夕食と13日昼食のお手配、美術館見学をさせていただきました向井氏にはこの場で改めて御礼申し上げます。（荒井健太郎）



折茂佑子氏を囲んで（右から５人目）



向井館長を囲んで（左から４人目）

マッキントッシュの部屋

第21回英国歌曲展Plus
（民謡から芸術歌曲への旅）に招かれて

9月18日銀座王子ホールで開かれたコンサートにお招きを受け、テノール歌手辻裕久氏(玉川大学芸術学部教授）とピアノ演奏者なかにしあかね氏（宮城学院女子大学教授）の演奏を楽しみました。プログラムにはスコットランド民謡のアニー・ローリー、ライ麦畑で(故郷の空)、ロッホ・ローモンドが含まれ、辻氏が本格的なスコットランド英語で朗々と歌い上げられました。ピアノのなかにし氏はアニー・ローリーの伴奏にThe Blue Bells of Scotland、さらに、ライ麦畑での間奏にこの曲の原型と言われているAuld Lang Syne（蛍の光）を巧みに組み入れ、結果として5曲が楽しめるという素晴らしい編曲をされました。演奏会後、JSAとして今後、Scotland 民謡の研究、普及に努められているお二方とさらに様々な活動を共有していきたいとお話をしました。（関妙子）

なかにしあかね氏　辻裕久氏　関名誉顧問

Scotland then and now

Kate Thomson

70th anniversary of the Edinburgh International Festival

Recovering from the devastation of World War II, the Edinburgh International Festival was founded in 1947 with the vision to bring people together through world-class art by providing a platform for the “flowering of the human spirit".

Artists of every nationality were keen to heal the wounds of war and overcome post-war darkness, division and austerity. Rising above Nazi persecution, the renowned conductor Bruno Walter was re-united with the Vienna Philharmonic for one of the performances.

The festival spirit was embraced by the people of Edinburgh who donated their coal rations to floodlight the castle, and opened their homes to accommodate artists and audiences as many hotels were still requisitioned for military use.

In August 1947, eight uninvited theatre groups turned up and the more informal Festival Fringe was born. The inaugural International Festival of Documentary Films later became the International Film Festival. And the Royal Edinburgh Military Tattoo soon joined the fun. The Jazz and Blues Festival started in 1978, and in 1983 the Edinburgh International Book Festival began giving fiction and non-fiction a stage. The popularity of all this cultural activity went on to propagate even more festivals celebrating science, storytelling, children, Hogmanay, and the visual arts.

Kate performing on the Fringe

So growing up in Edinburgh I had on my doorstep the international wealth of music, theatre, dance, film, literature and art. For the month of August my family home became a hostel for actors, opera singers, dancers, stage crews, conductors, and directors from all over the world. This, and volunteering front of house or behind stage for at least one production every year, gave me access to fascinating insights into the energy and commitment of producing world-class performance, and an appreciation of international collaboration. By the time I was an art student myself I was also performing on the Fringe with experimental dance theatre productions.

From the first optimistic seeds for peace and reconciliation Edinburgh has bloomed into the world’s Festival City, celebrating our highest achievements and nurturing our potential. Over the years the abundance of festivals have been a catalyst and platform for exciting experiments in the arts, education, and sciences, built strong and productive international relationships, inspiring generations of participants and audiences. Proof imagination, creativity, generosity and diversity enable a city and the human spirit to flourish.

JSA 東京

パブミーティング 4月21日

Brewdog Roppongiで第1回パブミーティングが開催されました。
多くの若者や外国人の方が集まるスコティッシュパブで、6名の方に参加頂き、懇親が行われました。会員や会員を検討されているスコットランド好きな方まで、幅広い方々の参加となりました。また今回はスコットランドからの留学生Jamesさんにも来ていただき、スコットランドと日本の違いなど、非常に話が盛り上がり貴重な時間となりました。次回も皆様の参加をこころよりお待ちしております。

Scottish Kitchen 4月8日

講師　種子田敦子氏

春のスコティッシュキッチンでは、
「肉入りパイ」
「温野菜の付け合わせ」
「ホッチポッチ（鶏と8種の野菜のスープ）」
「スコティッシュフラン」
を教えていただきました。
今回はホームページを見て参加した方、また来日中のスターリング大学学長三男James McCormacさんも加わり、11人で賑やかな会となりました。

参加者と種子田氏（左から2人目）

英会話 5月20日

日時：5月20日（土）午後3時～4時半
場所：山口宅　東京都大田区
予定を尋ねる表現 'What are your plans..?' を使って相手の色々な予定を聞き、'I'm planning to..' で答えるペアワークをしました。
また、「～のおかげで」「～のせいで」を英語で表現する練習をし、最後に一般的なアドバイスとして 'It's better to..' でシーン別の表現練習と、たくさんの使いやすい表現を学びました。
今回は3年もの長い間、たくさんの英語表現を教えて下さった功労者であるDarren先生の最後の授業でした。
ささやかな送別会で名残を惜しみました。

Darren Craig先生（右）

JSA 東北

2017年春の園遊会にJSA東北支部長（青森公立大学　学長）が招待されました。天皇陛下、秋篠宮殿下、お2人から直接お声をかけていただきました。JSA東北支部長は、公大連（全国公立大学教職員組合連合会）の副会長でしたが、就任時は最年少でした。

香取支部長

JSA 九州

去る6月30日の4時半から、宮崎公立大学301教室で今年の8月の夏期講座にスターリング大学に留学予定の6名にスターリング大学の留学生の現地での生活方法。特に「スコットランド」の自然と歴史的には幕末・明治維新の日本との関係について意外と身近な関係について講演をしました。皆目を輝かせて聞いていました。

前原支部長（左）

JSA 関西

関西ハイランドゲームズ・参加　4月2日

神戸・三宮で開催された関西ハイランドゲームズ協会主催の関西ハイランドゲームズに会員12名で参加し、バグパイプ演奏やハイランドダンスを楽しみ、またチーム競技にも参加した。また、会場にＪＳＡのブースを開設し、ＪＳＡの勧誘や即売会で雰囲気を盛り上げた。来年は4月1日に開催されます。皆様もぜひご参加ください。

バグパイプ入場

ハイランドダンス

ＪＳＡウイスキー倶楽部　3月18日

第5回ＪＳＡウイスキー倶楽部を「ウイスキーのブレンドとキーモルト」というテーマで「ハッセルハウス」で開催。ブレンデッドウイスキーとその風味のカギを握るキーモルトと言われるモルト原酒、ウイスキーの土台を支えるグレーン原酒、更にアクセントとなる原酒の6種類のスコッチウイスキーをテイスティングしながら飲み比べて楽しんだ。12名が参加した。来年のＧＷにサントリー山崎でのセミナーを調整しています。ご期待ください。

ＪＳＡのブース

ＪＳＡウイスキー倶楽部の様子

英会話教室　5月13日

会場を今までのバーやカフェからとよなか国際交流センターに替えて開催。講師はモード・ラムゼイさん。英会話そのものだけでなく、文化や習慣の違いなども共に学んでいる。10名が参加した。

モードさんを囲んでの英会話教室

モードさんを囲んでの英会話教室

スコットランド料理教室　4月16日、7月9日

春夏秋冬のスコットランド料理をモード・ラムゼイさんのアドバイスを適宜受けながら、英語レシピを見つつ自分たちで作ってゆくというスタイル。4月はBraised Lamb、7月はStewed Mince Pattiesが主菜でそれぞれ前菜とデザートも含めて料理を楽しんだ。4、7月共に12名が参加した。

Braised Lamb

Baked Chocolate Pudding

Stewed Mince Patties

Apple Snow

イベント紹介　砂古玉緒さんの「スコットランドの菓子を楽しむ！」（6月24日）

ＮＨＫ朝ドラ「マッサン」でスコットランド料理と菓子の製作指導を担当された英国菓子研究家・砂古玉緒さんに本場のお菓子を紹介していただくイベントを開催した。ホームページやフェイスブックで告知後わずか2日で定員に達してしまうという大人気のイベントとなり、18名が参加した。砂古さんのデモとトークのあと、Dundee　Cakeなど本場のお菓子を紅茶やウイスキーと共に味わうことが出来た。

砂古玉緒氏

関西支部の9月以降の活動予定

9月10日（日）
スコットランド料理教室・秋の料理　西宮中央公民館
9月16日（土）
第6回ＪＳＡウイスキー倶楽部　ハッセルハウス
10月21日（土）
英会話教室　とよなか国際交流センター
12月3日（日）
スコットランド料理教室・冬の料理　西宮中央公民館
1月13日（土）
英会話教室　ハッセルハウス

上門　周二氏

(株)アネトス地域計画の経営者としてはもとより、としま未来文化財団理事、東京芸術劇場運営委員など、さまざまな公の立場でも活躍されています。専門の都市計画では多くのコンペで入賞され、最も新しいところでは、2015年に広島の「宮島口街づくり」国際コンペで250におよぶ国内外からの応募の中で最優秀賞を取られました。2022年には上門さんの手による新しい宮島口が誕生します。「都市と人間」が快適に活き活きと共生することをテーマに、日本及び東アジアを中心に世界各地のプロジェクトを手掛けてきていらっしゃいます。JSAには、20代から親交がある会長の片桐夫妻の縁で参加されました。2006年には「Tokyo池袋国際アートフェスティバル2006年」を片桐夫妻とともに開催、総括責任者として成功に導きました。現在JSAの理事として、Scotland Dayの芸術劇場での開催に尽力していただいています。都会の真っただ中にあるOfficeに屋上庭園を造られ、ビルの間で四季折々の自然を楽しまれ、「都市と人間の共生」を実践していらっしゃいます。

種子田　敦子氏

"Scotch Snap(音楽)とScotch Broth(スープ)と広めています"

フィドラー奏者 (Scotland Fiddle 東京代表)

約20年前、GlasgowのRSADM音楽院にてViolin教授法を研究時、フィドラーMr.IanFraser氏に出会いました。彼の家系の伝承民謡を習得し、同時にScottishの豊かな舞踊音楽を学びました。現在、日本の弦楽指導者協会の正会員を通じて、全国で広めております。
4種の代表的なScotsリズムは、バッハの時代から音楽に取り込まれています。一方、Scot. Kitchenでは、年4回、家庭向き、Broth(スープ)、Meats、Dessertsを作成、試食していただいています。ご関心をおもちいただけましたら、お気軽にご参加ください。スコットランドのお料理と、音楽を楽しんでくだされば幸いです。

中井　明彦氏

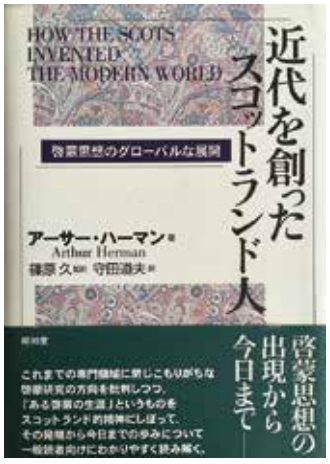
私は２０１３年に東京本部で入会し、２０１４年に定年退職で京都に戻り、それ以来関西支部でお世話になっております。実を言いますとこの会に入るまではスコットランドに特別興味があったわけではなく、どちらかと言うといろいろな方と付き合っていく刺激が私のモチベーションになってきました。東京の英会話教室ではダレン先生の人柄と、楽しい雰囲気とを楽しみ、関西ではモード先生から感じられるスコティッシュの気骨、気概に触れ、すっかりその人柄に魅了されてしまいました。モード先生の話を聞くうちに、産業革命の中心人物を輩出したのはなぜだろう？スコットランド兵は勇敢・屈強であった、などなどその理由が知りたくなり、本を読んだり思いを巡らしたりしていました。そのうち今度は自分の日本人としてのアイデンティティーのなさが気になり、何を身に付けるべきなのかと悩みだして、多少なりとも自己研磨しなければと、お茶の勉強を始めたり、古典を読んだりと、いろいろ始めております。自分の刺激になっていることが何よりこの会に入ってよかったと思うところであります。私は関西支部では事務局のメンバーとして、ホームページの更新や料理教室の準備などを担当し、関西の活動を少ないメンバーで支えあっています。なかなか会員が増えないのが悩みですが、毎回ビジターの参加もあり、みんなで楽しくやっています。今後も地味ながらイベントを通し会の活動を広めていきたいと思います。

寄贈本の紹介

「近代を創ったスコットランド人
一啓蒙思想のグローバルな展開」昭和堂　2012年

原題は"The Scottish Enlightenment"(アメリカの歴史学者アーサー・ハーマン著）で、2001年の発売以来25万部を売り上げている。日本語訳を出版された守田道夫氏がJSAに寄贈してくださいました。氏は商社マンとして活躍され、ニューヨークをはじめ多くの海外経験をされましたが、Edinburghで偶然これを手にされ、感銘を受けられて訳書を出版されるに至ったとのことです。今まで読んだScotland 関連の書物の中で、Scotlandの啓蒙思想が世界の近代化に貢献した過程を最も包括的に捉え、さらには詳細に分析されています。479頁に及ぶ大作ですが、一気に読み終えてしまいました。Scotlandに興味のある方々には必読書として強くお勧めします。（関妙子）

守田道夫氏



寄贈本の紹介

「さかいめねこーメルヘン２１編」花伝社　2016年

JSA会員の西田多恵氏書かれた一編が収載されています。
「てんぐだいらで　たんじょう会」というタイトルで、小学校3，4年生対象の物語です。西田さんはJSAの活動に積極的に参加されている、設立直後からの会員です。作品には、お人柄がそのまま現れていて、読後に温かい気持ちに包まれました。作品は西の内多恵というお名前で書かれています。
JSAの図書として、皆さんにご覧いただけるように本部に保管してあります。
(関妙子)

西田多恵氏

スコットランドから来訪された方　スターリング大学 Stuart Shorthouse氏

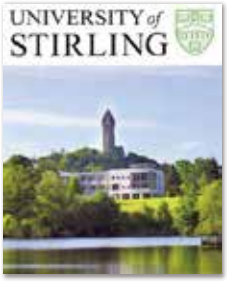
スターリング大学にて日本人留学生と

Stuart Shorthouse
Director of International and Recruitment
International and Student Recruitment
University of Stirling

I spent a week in Japan on business at the beginning of May this year. I was last in Tokyo in 1997 when I worked for a year as an English Language Teacher at a private English school, so it was a real pleasure to have the opportunity to return to this wonderful country after so many years. In my role as Director of International and Recruitment for the University of Stirling, I am very fortunate that I get the opportunity to travel frequently across the globe to meet existing and potential new partners. Japan is a strategically important market for the University and during my visit, with the support of Dr Taeko Seki, I spent a very productive week meeting with some of our long-standing institutional partners to discuss how we can grow our mutually-beneficial links over the coming years. In addition, I had the pleasure of attending the JSA Annual Meeting at the British Embassy. It was excellent to see so many Stirling partners and alumni at the event, and to speak to some very interesting people who have such a strong connection with Scotland.

お知らせ　「スターリング大学春期英語研修（7週間：2018年2月5日～3月23日」参加者募集

7週間の英語コースで本格的に英語の習得を目指したい方ご参加ください。3、4、5、6週間の参加も可能です。18歳以上であれば英語能力や年齢の制限はありません。クラブ活動に参加するなど現地の学生との交流が図れます。経費：学費、寮費、週末旅行（エディンバラ、グラスゴー、セント・アンドリュース、ネス湖一泊）すべて含んで約4800ポンド　※左記金額は7週間参加の場合。
参加期間によって料金は変動します。Flight代と生活費（自炊で1週間5000円程度）は別途支払いが必要です。
上記にご興味のある方はお気軽にJSA事務局までご連絡ください。
会員のご家族、ご友人の方の参加も歓迎です。
締切：11月30日　【お問い合わせ】東京本部　TEL/FAX 03-5988-8785 E-mail: info@jpn-scot.org



編集後記

本号より紙面を12ページに拡大しました。JSAの活動が年々拡大しており、8ページでは収まりきらなくなってしまいました。編集担当としては嬉しい限りです。記事の執筆をお願いして快く引き受けていただける会員の皆様には心より感謝申し上げます。今後も皆様方の活動を一つでも多く伝えられるような紙面構成になるよう努力してまいります（飯村英人）

NPO法人
日本スコットランド交流協会
The Japan Scotland Association

東京本部　〒161-0033　東京都新宿区下落合3-12-28-1401　Tel & Fax：03-5988-8785　E-mail：info@jpn-scot.org
Tokyo Headquarters：3-12-28-1401 Shimo-ochiai, Shinjuku-ku, Tokyo 161-0033, JAPAN　Tel & Fax：+81(3)5988-8785
東北支部　〒030-0196　青森県青森市合子沢山崎153-4 青森公立大学 香取真理研究室内
Tohoku Branch：% Prof. Mari Katori's office, Aomori Public University, 153-4 Yamazaki, Goshizawa, Aomori-shi, Aomori 030-0196, JAPAN
関西支部　〒560-0082　大阪府豊中市新千里東町2丁目5-3-906　Kansai Branch：2-5-3-906 Shin-senri, Higashi-machi, Toyonaka-shi, Osaka 560-0082, JAPAN
九州支部　〒880-0032　宮崎県宮崎市霧島2-23-2　Kyushu Branch：2-23-2 Kirishima, Miyazaki-shi, Miyazaki 880-0032, JAPAN

0161018-2000-ND